

3章 「科学する心を育てる」創意・工夫

子どもたちの「科学する心」を育てるために、各園でさまざまな創意・工夫が生まれました。第3章では、各園のキラリと光るアイデアを紹介します。いろいろな事例や工夫を、ぜひ皆様の園の「科学する心を育てる」実践に活かしていただきたいと思います。

1. 五感を拓く もりのみち作り 二葉幼稚園・二葉つぼみ保育園（東京都品川区）

情緒性と感覚を培うために・・・

科学する心を育てるためには、遊びの中で発見したり、感じたり、考えたり、疑問に思ったり、実現したりしていくことが大切だと考えている。そこでまず、感じる心(感性)を研ぎ澄ましていく必要があると考える。そのために、五感を拓く環境を開発していきたいと思っている。

◆今年度までの取り組み もりのみち作りPart1

園舎の周りを回遊することで、幼児の探索活動が豊かになるといわれている。

そこで、本園では、園舎の周りを廻って遊べるように、園舎裏を「もりのみち」と名づけ、粗朶を置いたり、木を植えたりして自然(虫)を呼び込み、幼児たちが自由に遊べる場にしてきた。今年度はさらに、五感を拓く空間にしたいと考え、「もりのみち」作りを進めてきた。

具体的には、見て感じとったり、道を通ることで足の裏から素材の感覚を感じたりできるように、いろいろな大きさ、色、材質の石や丸太、ウッドチップや砂、ブロックなどを順に敷き詰めて置き、体感や視覚などに訴える空間を創り出した。

◆豊かな探索活動

「もりのみち」の変化に気付いた幼児が、自分で、または友達や教師と一緒に「もりのみち」を通して遊ぶようになった。幼児同士の伝え合いにより幼児の中に新しい空間の楽しさが伝わり、多くの幼児が「もりのみち」を通して遊ぶようになった。

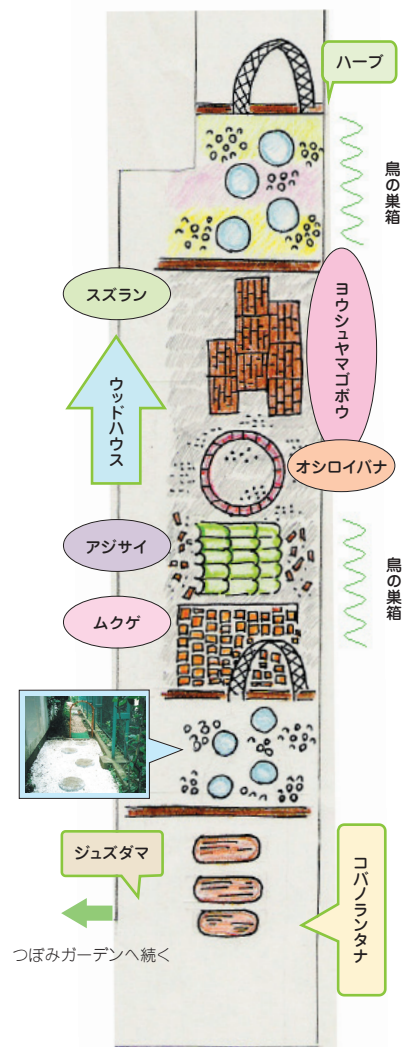
7月、A児、B児が「探検」と言って、「もりのみち」を散策して遊んでいた。ピンク、クリーム、グリーンの石が敷き詰められた道の終わり部分に着いた時、B児が「ここでおしまい」とつぶやくと、その言葉を聞いたA児が「もっと道は続くよ」と言う。その後、「こんな道があったら面白い」「どんどん作ってにこにこ通りまで続いていったら楽しい」と考えを出し合い、夢を膨らませて楽しんでいた。

◆これからの取り組み もりのみち作りPart2

今後も五感を拓く空間として、ハーブ類など植物を増やししたり、鳥の巣箱を置いて自然を呼び込んだり、幼児の憩いのスペースとしてウッドハウスを置いたりしていくことを考えている。

「もりのみち」が子どもたちにとってさらに楽しい空間になっていくように、子どもと共に考えながら道作りを進めていきたい。

「もっとみちはつづくよ」
「もりのみち」作り



ポイント

子どもたちが園舎の周りを廻って遊べるようにと、都会の限りある園庭を上手に活用し、何もなかった園舎裏に子どもたちと「もりのみち」を作りました。子どもたちの五感を拓く空間をつくるという思いを大切に、素材や構成に様々な工夫がこらされています。この「もりのみちづくり」は子どもたちと先生方が共に考えながら、さらに楽しい空間を作るために進められていきます。